

病 理 診 断 科

【実習目標】

一般目標：

1. 臨床医学における病理診断学のはたす役割を知るために、外科病理学、細胞診、病理解剖などの基本的知識と技能を身につける。
2. 基本的病理検索手技とコミュニケーション技能を身につけ、主治医と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。

行動目標：

1. 生検・外科検体の病理学的検査の意義、概要、有用性、限界、手順を述べられる。
2. 生検・外科検体の病理学的診断を行える。
3. 細胞診の意義、概要、有用性、限界、手技を述べられる。
4. 細胞診の基本的診断を行える。
5. 術中迅速診断の意義、概要、有用性、限界、方法を述べられる。
6. 術中迅速診断を行える。
7. 病理解剖の意義、概要、有用性、限界、基本的手技を述べられる。
8. 病理解剖診断を行える。
9. 病理診断に必要な各臓器の取り扱い規約及び診療ガイドラインなどの知識や情報を適切に検索、収集し、それらに基づき求められる病理診断学的情報を適切に整理できる。
10. 病理学的診断の結果を症例検討会などで呈示し、主治医の疑問に応えられる。

【実習内容】

1. 病理解剖

病理解剖の実施は前もって予定されるものではない。実習中、常に待機の態勢をとり、依頼があった際に迅速に対応する。さらに、出来上がった組織標本を用いた病理解剖診断を行う。

2. 生検・外科材料

大型の手術材料については、固定、写真撮影、切り出しの一連の作業に従事する。出来上がった組織標本を用いた病理組織診断を行う。

3. 細胞診

細胞診の基礎を学習し、実際に標本のスクリーニングと確定診断を行う。

4. 術中迅速診断、遠隔病理診断

凍結標本の作製方法を学び、診断を試みる。。

5. カンファレンスへの参加

別表のカンファレンスに参加し、症例を提示してその討議に加わる。

教育型 CPC には実習期間中か否かに関わらず、一度は必ず参加して、質問や意見を述べる。

6. 病理組織標本作成

HE 染色標本、組織化学的染色、免疫組織化学的染色及び DISH 標本などの組織標本作成の手技を学ぶ。

7. 検鏡実習

特定臓器の様々な疾患のプレパラートを系統的に検討し学ぶ。

8. 実習期間

症例報告を執筆することも可能であり、症例のまとめ方や論文検索とその読み方を学ぶことができる。過去3名が執筆している。

カンファレンス日程

月曜日	16:30～	皮膚病理カンファレンス	カンファレンスルーム
月曜日	19:00～	肺癌カンファレンス	入院棟5階 カンファレンスルーム
月1回火曜日	17:15～	血液病理カンファレンス	病理診断科 カンファレンスルーム
月1回水曜日	18:00～	頭頸部腫瘍カンファレンス	病理診断科 カンファレンスルーム
月1回水曜日	17:00～	婦人科癌カンファレンス	病理診断科 カンファレンスルーム
月1回水曜日	17:00～	肝癌カンファレンス	オンライン
木曜日	17:00～	乳癌術後カンファレンス	病理診断科 カンファレンスルーム
木曜日	18:30～	膵・胆腫瘍カンファレンス	病理診断科 カンファレンスルーム
金曜日	8:30～	細胞診検討会	病理診断科 カンファレンスルーム

不定期	18:30～	骨軟部腫瘍カンファレンス	病理診断科 カンファレンスルーム
2か月1回	19:00～	消化器癌カンファレンス	第4講義室
2か月1回	19:00～	教育型 clinicopathological conference (CPC)	未定

指導教官

病理診断科 教授 有廣 光司
数名の医科診療医も指導に当たる。

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	10
教授による手術標本の取り扱い手技の評価	10
検討会での症例呈示と質疑応答	30
学生用カルテの内容（症例の診断と問題点の理解）	10
ポートフォリオの内容	10
教授による病理解剖の手技の評価	10
教授試問（随時行います）	20

【注意事項】

1. 実習初日の9:00に臨床管理棟3階 病理診断科カンファレンスルームに集合すること。

2. 感染症に遭遇する場合がありますので、感染予防のため手洗いを励行すること。

3. 積極的な姿勢で実習にのぞむこと。

4. 連絡先

有廣：電話 082-257-5590, メール arihiro@hiroshima-u.ac.jp,

玉井（事務担当）：電話 082-257-5591, メール tamai70@hiroshima-u.ac.jp